

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 29 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 田原口 智士 職位：教授

役 職：獣医学科長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

私は、学部では、真菌、大学院ではウイルスと対象は異なるが微生物学を専攻し、大学院を修了後は民間のワクチン会社・国立大学附置研究所・地方国立大学を經由し2008年から獣医学科微生物学研究室に赴任して以来、ウイルス学に関わる教育・研究活動に従事してきた。ウイルス学の習得には、目に見えないウイルスの形態ならびに構造を理解し、その増殖の機序分かる必要がある。ウイルスの基礎知識を十分に付けウイルスとそれに起因する病気を知り、その知識を伝染病や臨床に繋げ、獣医師国家試験に合格できるようにする。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
獣医学概論	獣医学科	必須	1	140
微生物学	動物応用科学科	必須	2	140
微生物学総論	獣医学科	必須	2	140
微生物学各論 II(ウイルス)	獣医学科	必須	3	140
微生物学実習	獣医学科	必須	3	140
卒業論文	獣医学科	必須	6	3

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

ウイルス自体は、五界説に分類されず、生物ではない。それが宿主に感染すると自己を複製し増殖するため、あたかも生物のように振る舞います。詳しいウイルスの学習は、多くの学生が初めてであるため、最初は理解し辛いところがあるかもしれません。教科書を眺めているだけでは、その面白さがわからないと思うため、身近なものを例にしたり、最近のウイルス関連のトピックを出したりしながら、興味をもって講義を受けられる様に工夫している。少しでも多くの学生にウイルスの面白さを伝えたい。ウイルスは、個々にその宿主特異性が存在する。そのため、宿主域を理解する必要がある。ウイルスが引き起こす細胞レベルの変化・個体レベルの感染および体内伝播などを学習することで、後に続く公衆衛生学、伝染病学、病理学や内科学などの科目を勉強と関連付け、最終的には、国家試験合格へ結びつけて欲しい。

また、卒業論文では、ウイルスを使用した調査研究を通じ、座学で学んだ知識と技術の定着に力を注いでいる。学生たちが、本学で学んだ知識と技術を実社会でも活かしつつ、問題解決能力を発揮する手助けとなるよう努めている。実社会では、答えが準備されていないことが大半である。そのため、自らその解決方法の探求を行う必要がある。そのためにもウイルスが関連する現象に疑問を持ち、その疑問を解き明かすことを、学生とともに取

り組んでいく。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

ウイルス学の内容は、ゲノムを構成している核酸が二本鎖 DNA ばかりではなく、一本鎖 DNA や RNA のものもある。さらに RNA をゲノムに持つものは、二本鎖 RNA、一本鎖 RNA がある。また、一本鎖 RNA にも mRNA として働く+鎖 RNA と mRNA として働かない-鎖 RNA があるなど、既存の生物学の理解だけでは解決出来ない。従って、教科書を読んでも分かり辛いため、身近なものを例にしたり、最近のウイルス関連のトピックを出すウイルス学の講義・実習を受けることで教科書を読めるようになって欲しい。教科書の内容ばかりだと興味がなくなったり、集中力を維持出来ないと考えていますので、講義や実習時には、教科書以外のネタを仕込んでいる。座学では、スライドばかりの単調な講義ではなく、板書も行うハイブリット講義を行なう。講義の内容は、基本的に教科書に沿って行うため、復習もやりやすくしている。

研究では、まず実践してみる。また、失敗してもその原因を自ら考え、改善することが、自身の成長を高められるきっかけになると考えている。また、学生とのディスカッションを行いやすいよう環境作りをおこなっている。

アクティブラーニングについての取組

基本的に、資格教育であるため。アクティブラーニングには不向きな内容ですが、場合によって学生に質問を投げかけたりして対応している。

ICT の教育への活用

學理（LMS）を利用したミニテストや資料を作成している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

教科書には記載されていない現場で起きているトピックスや最近の知見を積極的に入れることで、学生が少しでも興味が出るような対応を心がけている。

②学生の理解度の把握（B）

毎回、ミニテストを行うことで、学生の理解度の把握に努めている。理解度の悪い内容については、再度復習をしている。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

ミニテストを行うことで、少しは自学自習を促しているとは考えているが、充分ではない可能性も否定できない。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

講義後やオフィスアワーに、質問の対応を行っている。

⑤双方向授業への工夫（B）

講義の合間に、質問を投げ掛けるなどを行い、集中力を途切らせないようにしている。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

獣医学科学生にとって最も重要な課題である国家試験の受験は、学生にとって非常にストレスになっている。学生への声掛け等を行うなど、必要があれば相談等を行うようにしている。また、成績不良者については、個別で指導を行うこともある。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生の授業評価を鑑みて、可能な限り反映するようにしている。スライド等の見難い箇所を修正し、見やすいものに変更している。

②①の結果はどうでしたか。

悪いコメントは、減っている。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

スライドは、毎年見やすいように修正していく。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

卒論研究で出た結果は、学術集会への発表や論文発表できるように促している。やる気のある学生には、どんどん実験・研究ができる環境を作っている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学術集会での発表数や、論文数に反映できる。また、その発表による質疑応答を行うことで、学生も刺激になっていることが理解出来ている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD 活動には、積極的に参加している。グッドティーチング賞受賞の教員の講義を聞くことで、取り入れられる内容については積極的に取り入れる様にしている。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

過去に一度、グッドティーチング賞を頂いた。再度、この賞を頂けるように学生に評価される講義を行いたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

(「実践ティーチング・ポートフォリオ スタートブック」(大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編)から引用)

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの
シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材(配布資料, パワーポイント資料など)
2. 教育改善に関するもの
(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの(複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

1. 学生から
授業評価データ, 授業に関するコメント(授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント
2. 同僚から
授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績
3. 大学/学会等から
教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡